



お坊さんとケアマネさん



竹中 尚文 様

差出人 木村 晃子

竹中 尚文 様

すっかりご無沙汰いたしておりました。こちらは、春はほど遠い毎日です。今年、北海道以外での雪の被害のニュースを聞きながら、さぞかし大変なことだろうと、我が身に迫る思いです。雪は、美しいだけでなく、毎日の生活の中に厳しさをももたらせる存在です。私の住まう地域も、豪雪地帯です。残念ながら、この冬も、雪にまつわる悲しい出来事が起きています。暗いニュースばかりでは、春が待ち遠しいばかりです。春は本当に近くまで来ているのだろうか、と感じてしまうほど、今年、冬が長く感じます。それでも、春は来ますね。毎年、それは経験していることです。

さて、仕事の区切りで言うと、もうすぐ今年度が終わります。振り返ると、めまぐるしく走り通した一年でした。これまで、自分の住む地域で、暮らしも仕事もしてきました。ずっと、それは続けて行くのだらうと思っていました。けれども、この年度をもって、仕事を辞めることになりました。諸事情があつてのことです。

自分で決めたこととはいえ、「こんなはずではなかった。」というのも正直なところで
す。

平成 17 年、なんの看板もない私が、たった 1 人で独立開業をしました。

地域の人に支えられながら、ケアマネジャーという仕事を続けてきました。様々な出会い
があり、別れもありました。

出会った方々の、人生の最後の方の日常に、ほんの少し寄り添わせていただくこの仕事
は、とても多くのことを学ばせて頂いたと感じます。

まる 13 年。本当に地域の人にはよくして頂きました。

継続して積みあげてきた仕事を離れるのは、まさしく断腸の思いでした。

仕事を辞めることを決めてからは、喪失感でいっぱいでした。しばらくは、自分への疑心
暗鬼で、未来を考えることさえも難しい状況でした。そんな時に助けてくれた人がたくさ
んありました。

親身に考えてくれた人。黙って受け止めてくれた人。現実を教えてくれた人。それらの人
たちに支えられて、今は少しずつ、春からの新しいスタートへと気持ちを向けることがで
きてきたところです。

自分のしてきたことが、思わぬ結果になってしまった時。何を信じたら良いかわからな
くなりました。しばらく途方に暮れましたが、今は流れに身をまかせてしまおう、と思う
ようになりました。

自分ではどうしようもないこと。そんな時は、流れに身をまかせて、ひっそりと生きてい
こう、と思えるようになりました。

今年の春は、別れの春となります。そして、その次には、出会いが待っているのだしょ
う。

絶望でもなく、希望でもなく、ただそこに在ることを感じていこうと思います。

先日、親しい仕事仲間から、「蓮の花ですね。」という言葉をもらいました。どういう
意味なのかな、と考えていたところです。

次は、どんなことを話題にするのでしょうか。3 か月後の自分が楽しみです。

春を待ちわびて・・・

2018年2月23日

木村晃子様

竹中尚文

こちらこそ、ご無沙汰をしてしまいました。

今年の冬は厳しいと報道を耳にして、きっと北海道は私の想像もできないような寒さかも知れないと思っています。私が住んでいる所では、この冬は積雪がありませんでした。でも、人と会えば「とっても寒いねえ」という言葉を交わす冬でした。来週は三月です。もう春がそこまで来ているような気がして、背伸びをして眺めてみたい気がする頃です。

木村さんはいよいよ今の職場を退職されるのですね。「こんなはずではなかった」というのは、退職の決心についてのお気持ちですか？ それとも今の職場についてのお気持ちでしょうか？ おそらく今の職場に対するお気持ちでしょうね。勤めてみたら予想と異なっていて、ひどくがっかりされたように想像します。

仕事に、恋愛に、結婚に、進学に「こんなはずではなかった」と思う人も多いと思います。選択をするとき、その結果は分かりません。確かに結果を予測して選択をするのですが、予測と結果は異なるものです。転職や離婚が否定的に見られた時代もありました。それは、自分の選択の責任であるのだから、望まない結果を我慢すべきであるという考え方が背景にあったのでしょうか。そうした我慢が何かを生み出したり、有効であったりするのでしょうか。選択の結果が、すべて運に左右されるとは思いません。一方ですべて努力に左右されるとも思いません。選択の結果は、そんな一元的要素に支配されるものではないのでしょうか。

選択の結果が望ましくないのであれば、リセットする方がいいのです。リセットをするというのは、また一から始めなければなりません。それはしんどいことかも知れませんが、やらなければなりません。木村さんは、今、その当事者であります。その木村さんに、私たちは頑張れというしかありません。声援を送るだけです。映画は途中から見るとより、最初から見の方がずっと面白いのです。そして、つまらない映画を見始めたら最後まで見る必要はないのです。

ここで少し、木村さんのケースを離れて見てみましょう。問題は、選択と決断

をしない場合に大きいようです。人生において選択と決断という場面はそれほど多くないように思います。経過観察ということで選択と決断を保留にすることが多いと思います。選択と決断より保留にしておく方がいい場合も多々あるでしょう。しかし、選択と決断が必要な場合にそれができないのは困ったことです。決断の先が見えないから、決断をしないのかもしれませんが。家を出たら誰に会うかもしれない、だから家を出る決断をしない人がいるようです。いやな人に出会ったなら、逃げ帰ってあげればいいのです。いやな人に出会ったなら、走って逃げ帰ればいいのです。いやな人に出会って、殴り倒すよりずっと平和的解決法です。そして、改めて出直せばいいのです。

木村さんのことに話を戻しましょう。木村さんにはすぐ傍で見守っている人たちがいます。木村さんが、再び一からやり直すのは無駄な努力かも知れませんが、子供たちの人生に意味ある努力です。子供たちがそれぞれの人生において一からやり直す場面に直面したとき、木村さんの今の状況を思い出すかも知れません。木村さんは勇気を与えることができます。家族はお互いの人生に勇気を与えたりもらったり、支え合って生きています。そして、木村さんの文章を読む私達も応援していますし、あなたから勇気ももらっています。

もうすぐ春です。どうかお元気で。

合掌